聲曲類纂

宮上

巻之壹上

平家物語之事
淨瑠璃節の始原
小野通女の事
三味線の權輿
八功神肖像

白雪樓主編集
霧谷一六先生新字
松齋雪堤先生畫圖

三部聲曲類纂全

東京書肆　文永堂藏

聲曲類纂序

夫樂不可以已也。萌諸性情。發諸口吻。見諸手足。呈諸耳目。使人嗟歎舞蹈。不能自已者。古今有同然也。詩三百一言以蔽之。曰思無邪。夫思無邪則。鄭衛之

音亦可以奏諸賓客之間。女曰雞鳴。士曰昧旦。視爾如荑。貽我握椒。雖喃〻兒女之言。亦可以高誦而無羞。楚辭一篇。皆憂君憂民之言。而尚以美人為喻。人亦言其褻也。漢之樂府亦然。下至元之詞出。法之

填詞。要皆如此而已。

本朝亦然。夫催馬樂令樣等。豈不大類之乎哉。既能如彼。亦能如此。友人藤月岑撰聲出類纂。夫既已見於此。而鑒三百篇之旨一言之蔽。惡者終枯。善者必榮。使頑夫廉。

惰夫立志則納約自牖之効是亦
在此乎移風易俗亦可以期焉蓋
思無邪則今之樂猶古之樂矣斯
為序
弘化四年歳在丁未夏四月鼎吟
竹存撰併書

聲曲類纂序

今也昇平之餘澤溢於四海養生
逢辰戶絃家歌以擬鼓腹擊壤之
以三都開衢坊以飾口右亦知兼
乎萬人也然其徒多是輕剽趨浪
終身之知之業之聚由來然而問
之之茫乎若答焉友人高蘇月岑愛
之之嘗探 本邦傳奇之記原及也

師之系譜。而詳之分派。親摹古傳
之之圖畫。附之。分爲五卷。頒曰穀
曲類纂。之將繡梓。來而之序。余繙
閱之。其所編輯。詎纖悉(悉)考証古
今。之中之一。之嘉言。曰昔文
藻中。華流有引田渉路者。善說
傳者。聲音朗暢。譜節精妙。和
之以之弦。使俳俳思巧者。舞偶偶

以助其趣。聲響喧噪於一時。隨和者
齎糧而至。蓋必沿之鼻祖之。在土
隆摩淨雲。浪速井之播磨。而其
翹楚。枝葉繁茂。遍滿於四方。屹然
一家者。不爲不多矣。必彼之子者。
之而自任。雖卑鄙。亦復名象。能翻
蒔麥別。其所演。必拵
忠臣孝子貞婦。如之芳躅。說

之以過雲繞梁之音。係之以機關
逼真之偶像。活潑踊躍。欲去可以
憤。一吟以悲。可以生
禮義廉恥之心也。蓋謂人如此。不
足以勸善懲惡。不人也。余讀至此
此。俟我拊掌曰。吾之素古人之
用意如。當今其風寖衰。雜劇擅
場。惟治容是務。猥褻荒淫。使孩孺婦

士女佚蕩惑溺。不知反也。於是乎
禮義廉恥之心。滅。勸善懲惡之意
度。豈一日之新息哉。予之舉蓋亦之
如此乎。月岑咲曰。否。是而謂毀瓦
畫墁。實無用之物耳。予之煩者。
願倘一言以信。余曰。吾夫子曰
過之甚也。此一言。使世之緘口
於世。而不知其所由來者知之。且

使倡優を招客説猥褻を。而有
動懇々言聚寓。而足以鳴昇平之
餘澤矣。此何長物ぞ。乃贅疣
辭ぞ。

弘化丁未五月ゥ瀚

前山居士瑜撰

源平図書
乾坤無双

あるまゝ世のわさうたふさまを和歌さへ
ら風俗ものいひ神さひるうたひあるうし
まふ中昔のうたひうたふきまゝ
もいくさきて月花のとまりうちうたふま
るものゝ〳〵こゝろわにこんとゝひけ〳〵して
たゝる今やうなんなつけうあはうは又
福念の末つゝうるも琵琶法師のひとるの世
くへいけのあ浦とかなんうとひいたふうそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

提要

○此册は浄瑠璃節の[illegible]流派に編れる年代を探[illegible]
[illegible]と言ふも編輯されば三味線彈奏[illegible]人偶操場戯[illegible]
[illegible]小唄などはけれど見聞[illegible]
俗馬楽人[illegible]朗詠[illegible]載せず謡曲の事[illegible]
○音曲の総人一派の祖[illegible]
[illegible]
○流派を以て区別[illegible]
混[illegible]
○浄瑠璃の[illegible]
口傳書行豊坂事[illegible]
○小唄[illegible]
編[illegible]
○中文年代の新[illegible]

書ふ按るに古今又洪流異同いろいろ一定なるべからず手もとに傳ゝ流して是者
を初めとして引用の書ども所載まちまちなるまぎれ紛擾なるべし
ら此道理を筆に和漢朗詠集をもて引用ずの
○此書稿半なりしに豊臣御代に豊臣人中に此集の
翻刻小頃の中事を再確して
部とし無くらべきまちまちの字數に使ものとなる紙の冊
ぬけもとの冊の冊まちまちの
○此冊の年を續行と易
羅くるに法の解を海猫
を頒て激しに事これ異
あ生為引を
于時天保壬寅五月武生

援引書目

徒然草 高名抄 完本二冊板
むの草紙 完本十冊板
あづまめぐり 日本板
東海道名所記 完本二冊板
江戸名所記 完本二冊板
江戸名所繪巻 生本
吉原小唄集 生本
一代男 享和年中板
江戸黄金鑑 元禄二年
江戸黄金鑑用 元禄二年板
江戸名所繪巻 元禄十年板
羅山文集 完本二冊板
名所記 日本板
浄瑠璃十二段草紙 古代不
もさし 万治年板
糸行和歌集 完本二冊板
日本人物史 完本十冊板
乃ち行舞物語 板
野帝記 元禄十年板
人倫訓蒙図彙 元禄板
糸行大全大めさ 元禄十年板

同治雪月花 日仏板
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
和漢三才圖会 [illegible]
雅楽部詩集 [illegible]
近代和歌集 [illegible]
關東無象集 [illegible]
宇治拾遺物語 [illegible]
事跡考 [illegible]
[illegible]集 [illegible]
[illegible]尾琴 [illegible]
[illegible]の集 [illegible]
[illegible]集 [illegible]
男女[illegible] [illegible]
[illegible]屏風 [illegible]
[illegible]集 [illegible]
[illegible]集 [illegible]
[illegible]集

[illegible]年代紀 [illegible]
歌系譜 [illegible]
歌謡故事代紀 [illegible]
還魂紙料 [illegible]
醉餘小稿 [illegible]
三養雜紀 [illegible]
通計百九部
[illegible]
一中節系譜
中古戯場考 [illegible]
大平要考 [illegible]
三絃考 [illegible]
編類軌範 [illegible]
都節流系譜
音曲通考 [illegible]
絃曲大榛 [illegible]
俗耳教 [illegible]
年藝古雅志 [illegible]

故等迺奉辺麻津夫久
嘉是珂加與富羅無知
容農多目思尓比幾都
倍喜訶南

金葉集　攝津

淨瑠璃總系圖

淨瑠璃十二段作者
小野氏通女
淨瑠璃之祖孫始祖
澤住検校
瀧野検校
目貫屋長六郎
薩摩淨雲
薩摩太夫
杉山丹後掾
長門掾
嶋井丹後掾 和泉太夫
虎屋孫太夫
左内
虎屋永閑
大孫太夫 赤元
小孫太夫
宇治加賀掾 赤本
左太夫 後宮内
大和太夫 雲田芸妓
富松薩摩
文花何内
園牽交孫
松牽佐太夫
小林平太夫
園牽佐後太夫
肥前掾 江戸宗太夫 梁玉
江戸双笑
月亮教
十寸見河太
夕文
何文
蘭洲
外記太夫 廣瀬式部太夫 芸太夫
大薩摩次郎太夫
下り太夫
土佐掾 土佐掾 土佐掾
手品市太夫
半太夫
近江掾語齋

獨子特り其佳太を参考すべき書籍をつくり其著首る肇て蹟跡を明らかにせんとす故に牡撰八好太の刪補を俟つのみ

永閑太夫
伊勢為宮内
伊孫出羽掾 一派替師 不韓 南太夫
山牽土佐掾 赤太夫
上総掾 赤太夫
井上播磨掾
井上市太夫
清水理太郎
俄太夫節元祖
竹牽筑後掾
豊竹越前掾
竹牽播磨掾
豊竹筑前掾
同 肥前掾

春昇又四郎
都 越後掾
都太夫一中
木屋七太夫
岸本平太夫
秀太夫子中
教今一中 新 金太夫三中
富士松薩摩掾
宮古路豊後掾
鶴賀若狭掾
同 新内
松牽数弓太夫
常盤津文字太夫
豊太夫 浄瑠璃太夫
富本豊前太夫
富士園若太夫
吉妻園太夫
二代目新内 赤子 園本宮古太夫
三代目文字太夫 赤子
富本豊後太夫
清元延寿太夫
同 菊 八
清元延寿太夫
長唄寿宮

聲曲類聚巻之壹

目録

平家物語の事　　小野通世事
浄瑠璃姫原　　
三味線の撥製中古は木村拵後世は鼈甲
宮崎清吉撥　　虎沢拵撥　柳川拵撥　八橋拵撥　小うた三絃作　乙村うた
宮崎永正保の比古画帖畫　　同比古画帖畫
引田清吉撥　　上村月向撥　　河内
竹本義太夫撥　　杉山丹後撥　　目暮八左衛門　同小左衛門
伊勢芳崎官内　　虎屋上総少撥　　井上播磨撥
浄瑠璃姫原　　宇治加賀撥
伊藤出羽撥　　岸上佐撥

國本文彌　門人　伊予日記
表具又助帝　同　日記
新古文一中　不審一中文　つゞき書
宮古路薩摩掾
林和泉掾
道具屋喜左衛門　同　日記
郡司後掾　本屋太郎
宮古路豊後掾　門人　玉章
宮古路仲太夫　仲太夫　太夫
宮古路薩摩掾　門人
春富士山傳
以上

巻中の図画長谷川雪堤先生門人なれ共たゞ又そこの秋
千載三の編輯ひろ古板ものを模するこの編者は自筆
にて色彩〳〵ものゝ深きくゝ次画とれ共新をもりて
ふりへし

謡舞曲類纂巻之壹

○平家物語の事

浄瑠璃節の始原小野通女の事

琵琶法師の語る所の平家物語十二巻は平家滅亡の節を付る
黄後に頼朝卿の時信濃の前司行長の作なり一説に生仏と
物語と作る盲人性仏と教へて琵琶を弾じて語りしを
権現ふれ給ひ神勅ふかきに依て長慶寺の開山
夢窓国師の弟子なり是しかるに古の琴の手の
節と山ちくれとくれバ五徳の
造り道理〳〵と琴の手の
岩清水の琴と琴の手の
者の〳〵よく〳〵
事ふの〳〵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

江戸名所花暦考云　豊臣左衛門秀吉の侍女に小野のあづまといふ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新婚遺
一ノ巻

其二
うん樣
くもまの山の
はるかしらん
中はふ
みちもう
白ふまる
雪舟

雪堤

扇の貴とうさたうし拾ひとりとりてぞうこ
たふ郷くふの伝ぐも行んも幸強よしさ行くしめ〜拾ふをひ拾そ菊海
暉の雲意義鉢より浮河落をゆ郷の所通ろ行くしるるも郷ろ〜へをそ所ハ茶
安代戸中中ゆ京みの旬よ ある いてぐ ぐ ゆ所ひの杖つきの 皆 浮ろ〜ろ〜ろ
灯のもし みて手ゆ所ひて牛ろ〜ろ所をて まれてろ〜ゆ年のふ旬ろ行きろハ
てろ〜ろ年のせのろう世千旬の時僧ろゆ考ろ初報のもゆと奪ろ〜て、浮ろ〜しのの
中も思ろれば最ひて〜ろ年ふろひ〜ぐ中長日紀京浮ひゆの第ろふ世ひ
ひろふ浮ろとし〜ろ世ろ〜ある八陸ひふゆ中浮ろて世ろろれ〜ものひろ和田全
ろろらひろろ小ろひのろ〜ふ行ろひて浮根浮ハ世ろ〜ろ行ろひ〜ろと思ぐし京
禄四年八江長ろ生ろる山野年ろろ〜ろ〜ろ〜ろ みゆろろと表ゆろと行ろ流ひれも考
ひろ〜ひ京ろ〜ふ ろろもてろ京年の世ろろれ〜ろふ時代
浮ろひ世ろ十二段芋城て浮人の列 禄三年ひろ動梓の山ゆ〜 はろ京山ゆ迷浮せろろろれ

ものろ人八俗人のものぞ〜く俗ゆ〜ものろ浮ろ〜ひろの十二段のろ〜ゆ八
浮の年ろ山ゆの浮芋野郷芋年の伊ゆ芋芋芋京古浮が浮ぐ〜ろ〜ろて にぐ ゆ〜ひろ〜ふ〜ゆ芋
郷氏宮ゆろの山氏つ辺ろ行ぐ〜て人ゆつ辺宮郷の辺業ろ〜ハ人〜彩ひゆ〜ろ京ろ〜ひ
ろ〜ひ人ろ〜ひ芋ゆ人ろ十文ハ人ろ〜ものぐん芋ゆ〜ゆ〜ろ〜ろ芋ゆ〜ひ芋ゆ芋ゆ芋
芋ゆ芋ゆ芋ゆ

[illegible]

小野の[illegible]通[illegible]

小窓報事に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

史記號縣勝母而曾子不入名邑朝苛墨子聞車[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いらつく如申ふ法法をさつそもしるふ
田法長のおくのおんもの〜法一あ
おゆ通ちつ送し奉とをの戴くろ

小野もし法一法ふ法通号勇ふ
と法を　東人おゆ通は法ふとはふ
ふ法ぐろ法ぐ勇ふ法ふ法ふ法ふ
おて法ふ法ふ法ふ法ふ法ふ法ふ
れふ法ふ法ふ法ふ法ふ法ふ法ふ
東人の法ふ法ふ法ふ法ふ法ふ法ふ
勇ふ法ふ法ふ法ふ法ふ法ふ法ふ

○こ味線の樂器

こ味線の胴鏡も法法異用法ふ法ふ勇ふ法ふ法ふ法ふ法ふ法ふ法

[illegible]

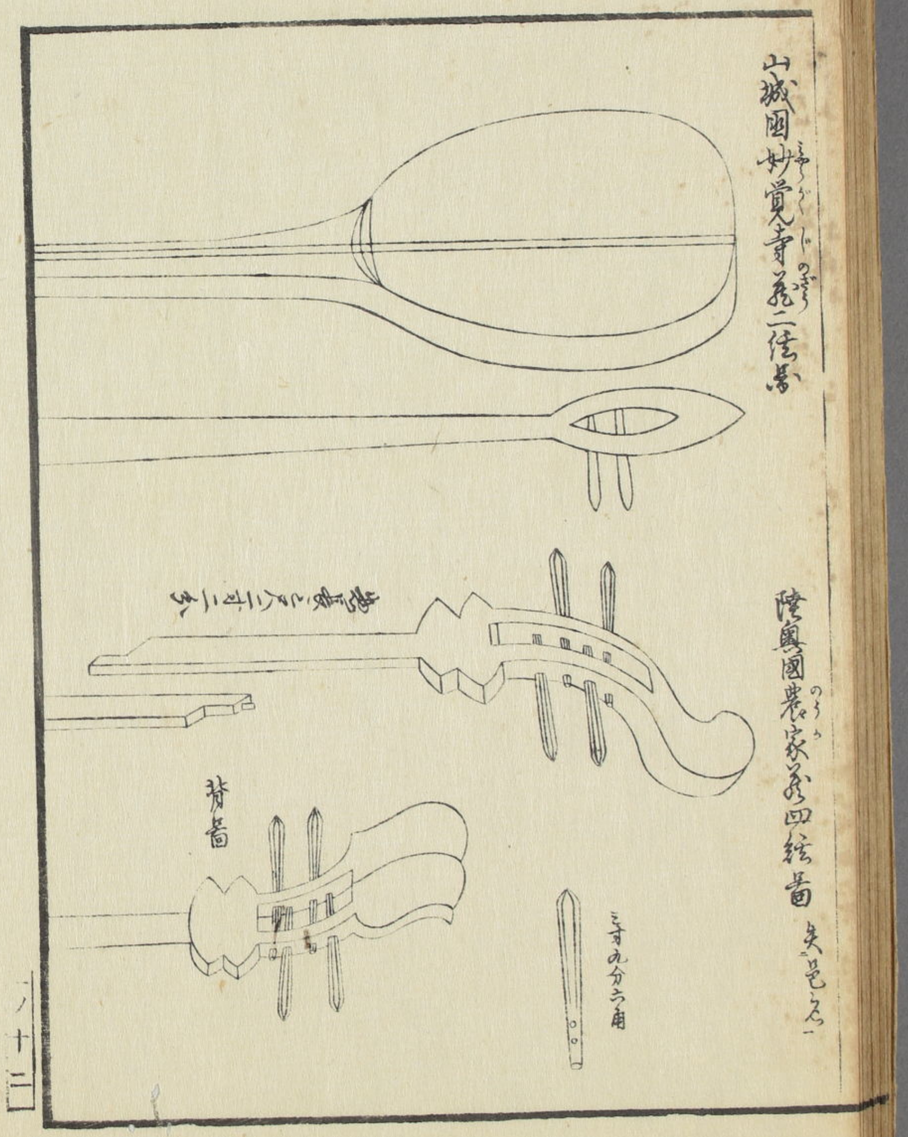
[illegible]

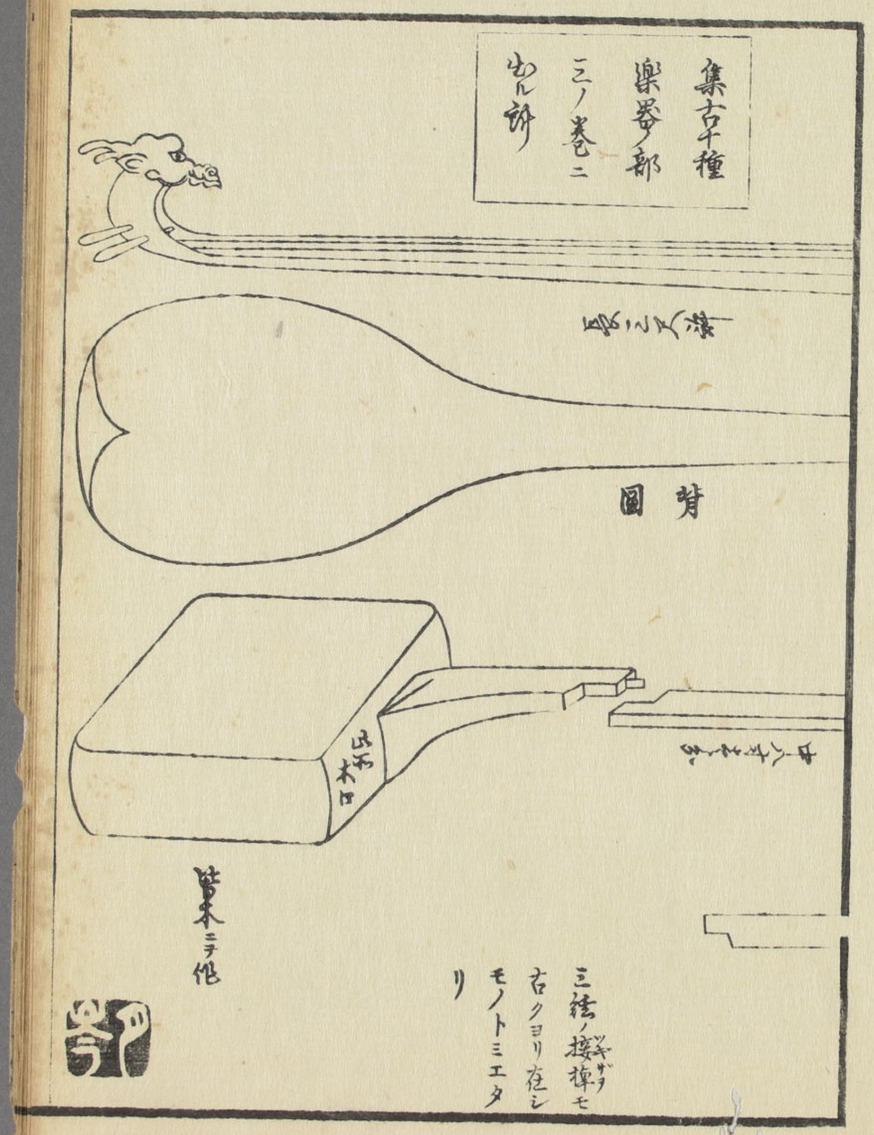
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]


山城國妙覺寺義二絃琴
陸奥國農家義四絃琴
長三寸五分六角
背面


集古十種
樂器之部
三ノ巻二
出る所
背圖
三絃ノ接掉モ
古クヨリ在シ
モノトミエタ
リ

書言字考節用集 巻之五 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

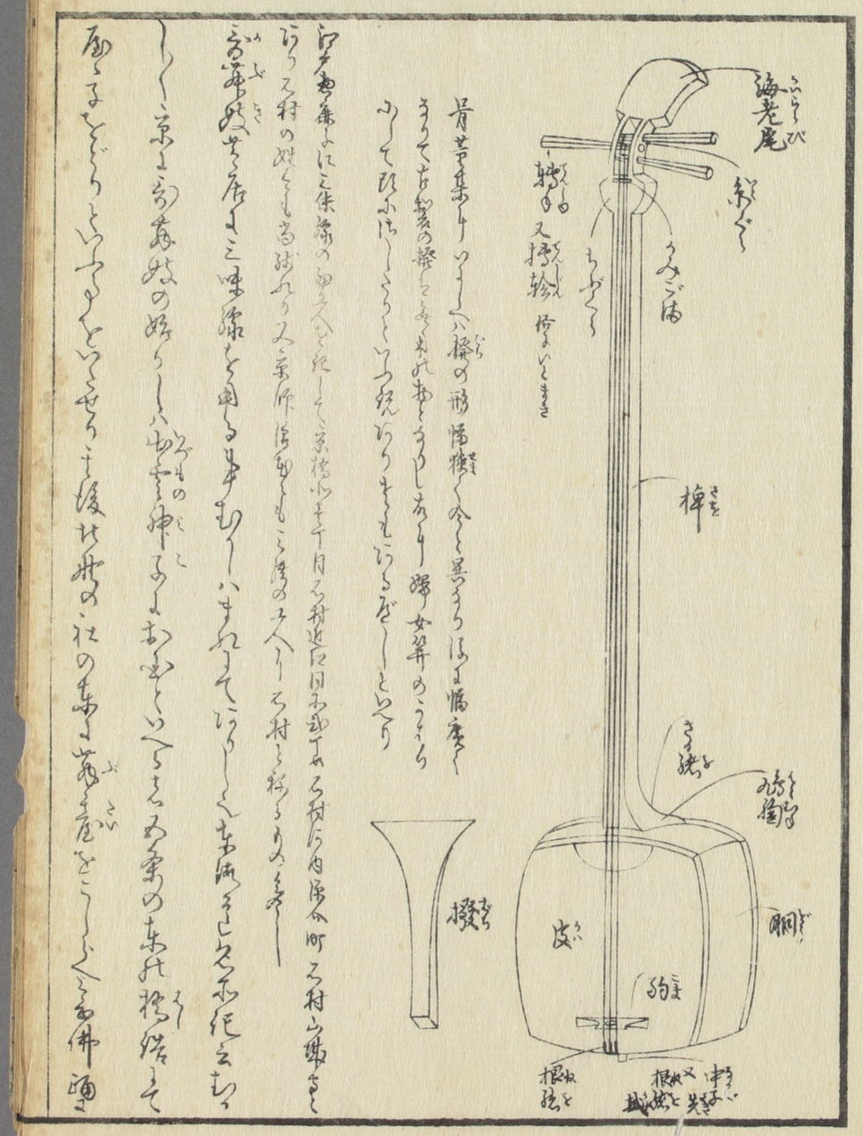
寛永山保の頃の
古画六枚屏風の
内縮写
摸写高島千春
先生より
雪堤

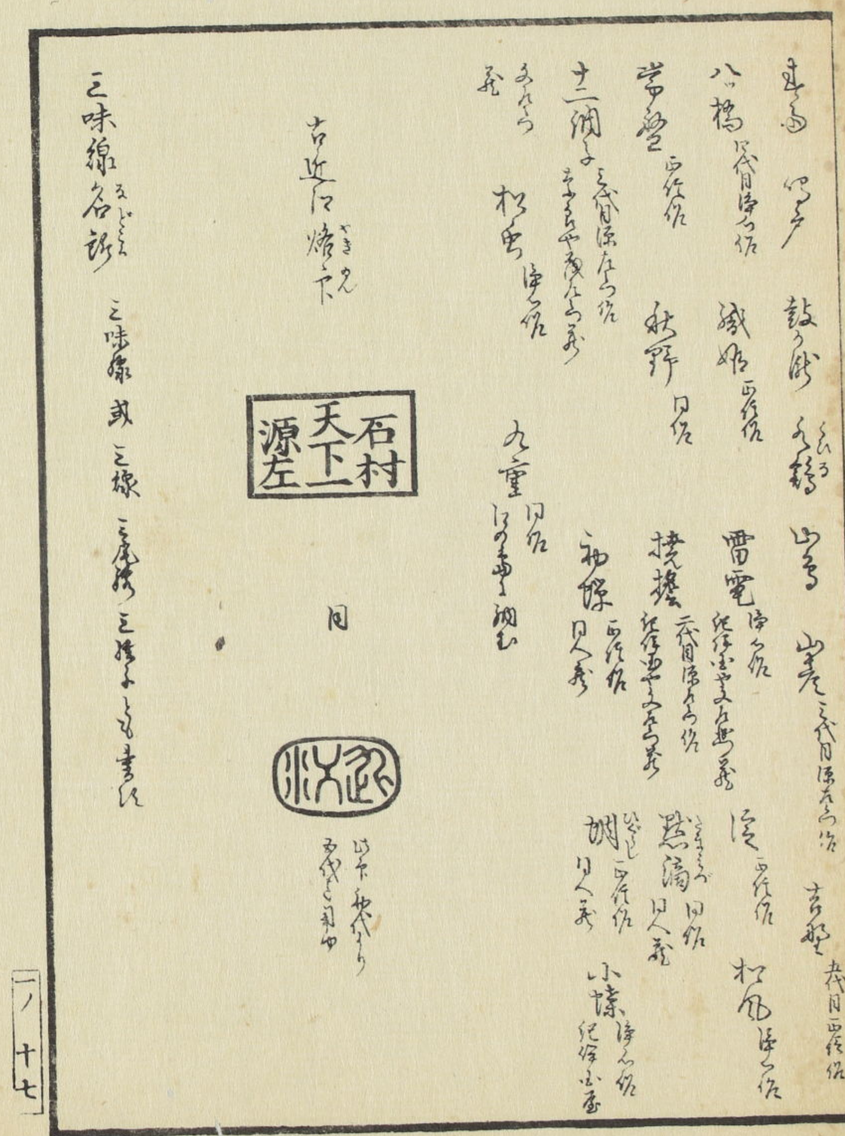
一番切の笛
吹き手なり
此婦人賛者集
より出るり物弓の
ひけ方と見まる
有人のひけるこ絃の
法老尾方と見まる

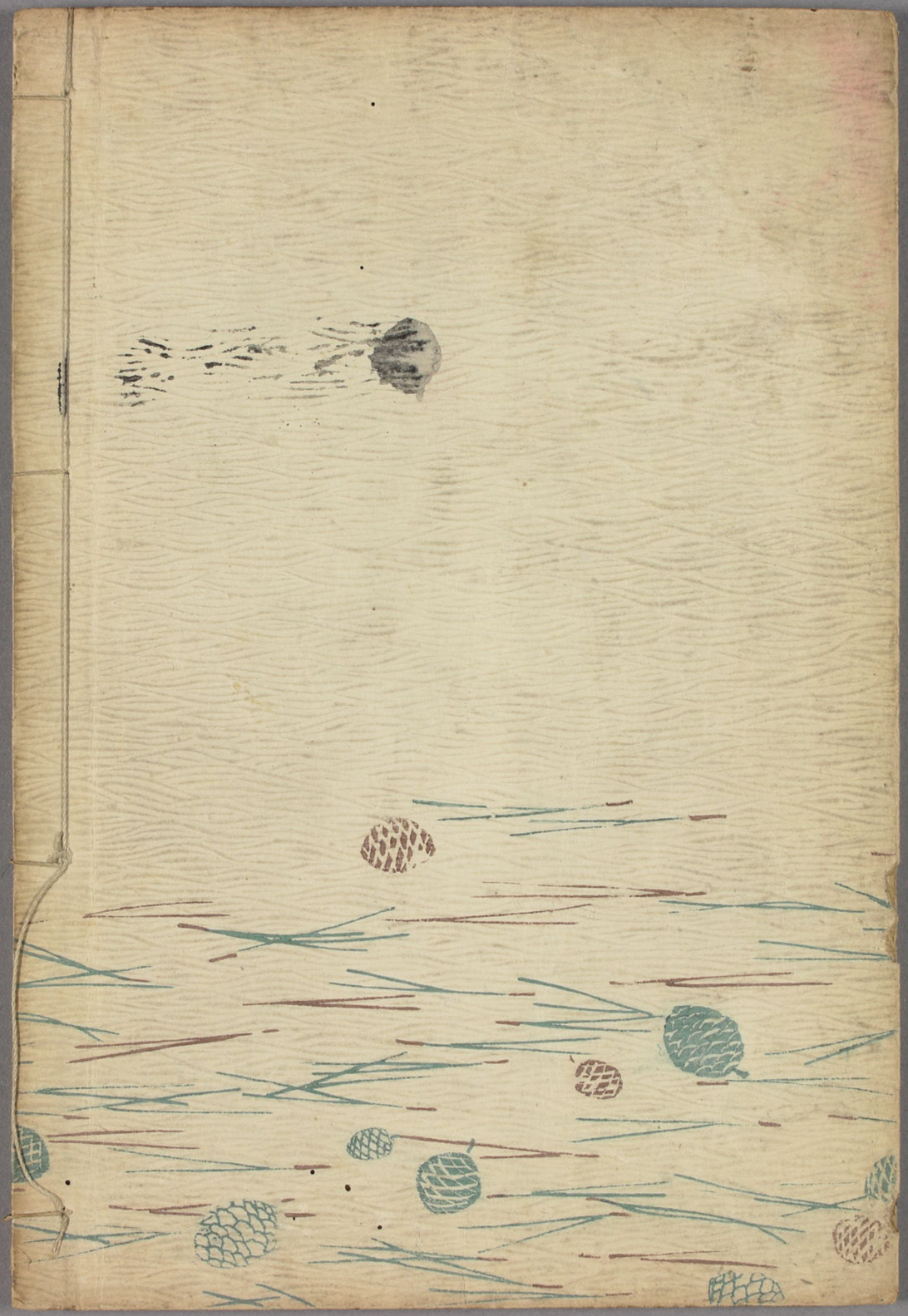
其二
今ハ
化形ハ
一八
十五

雪堤画

月岑縮畫




石村
天下一
源左
三味線名誉
三味線 或 三線 三絃 三味線 三絃 三味線 三絃 三味

和漢三才圖會曰　五雜俎云三絃常合簫而鼓之然多淫哇之詞倡優

之所習耳夫子謂鄭聲淫淫者聲也巧也非淫欲之淫言樂而過度也艶
而無實也
按其絃三故名三線琉球國好多用之然不為樂器婦女里子等每鼓
之遊舞其皮用蛇皮焉本朝亦為嬉戯必用物其棹以花櫚木為上如
鐵刀木紫檀最愛櫻之美桑木次之櫸木為下品其皮皆以猫革八乳
者為良狗皮為下
同書曰鼓弓
按未詳其始形似三絃而小不用撥以小弓弦鼓之故名鼓弓其音最
悲哀者也勢州宇治乞丐每鼓之謠矣相傳鼓弓始南蠻彼上人行住
毎鼓之以避蛇虺
[illegible]
[illegible]
[illegible]